



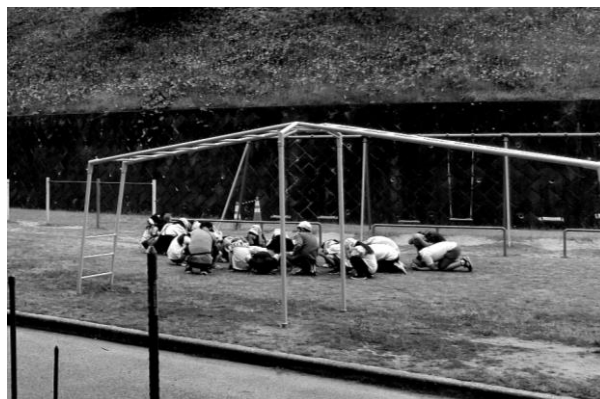
ほんきであれ

多古町立多古第一小学校

2021年6月11日6号

—夢をもち、自ら学び、自ら考え、心豊かにたくましく生きる子ども育成—

ワンポイント避難訓練～いざというときのために～



＜第3運動場で第一次避難する子どもたち＞

5月31日（月）、ワンポイント避難訓練を行いました。昼休み、子供たちが遊んでいるときに、緊急避難情報を流しました。第3運動場にいた子供たちは、最初驚いていましたが、すぐ遊具から離れて一か所に集まり、腰を低くして第一次避難の適切な行動がとれました。今回は、いつもの避難訓練と違って、実施日は子供たちに話していましたが、時刻は示していませんでした。もちろん先生方は、あえてその場でも指示も出ませんでした。しかし、子供たちは運動場でも校舎内でも、危険から身を守るための適切な行動がとれました。高学年から低学年への声かけもしっかりできていたことは、これまでの訓練の成果が発揮できたのだと考えています。

今後もこのような訓練を繰り返しながら、自分の命は自分で守るためのとっさに判断できる「危険予測能力」と「危険回避能力」を身に付けさせたいと考えます。

学校と家庭では、災害はどちらで起こる可能性が高いのでしょうか。実は、子供たちが家庭にいるときの方が、圧倒的に多いのです。なぜなら、子供たちの学校滞在時間は、朝8時から放課後16時30分（高学年の場合。低学年の場合はさらに学校滞在時間は短くなります。）です。つまり8時間30分間です。しかし、家庭滞在時間は、

24時間－8時間30分間＝15時間30分間

で、**およそ2倍**です。この事実から、家庭での避難訓練の実施はもちろんのこと、災害が起きた際の避難場所等のルールをきちんと決めておくことが必要になってきます。それが被害を最小限にするまず第一歩だと考えます。一度お家で話し合ってみてください。

“人間としての優等生に育てよう” 松下幸之助

つい先日、家の本棚の中に「親として大切なこと」松下幸之助著（PHP 総合研究所 編）という本を見つけました。以前買って置いて、読まないでそのままにしてしまった本です。松下幸之助さんについては、もう説明するまでもなくパナソニックグループ（旧松下電器産業）の創業者です。また、松下政経塾を開塾し、確か新しい千葉県知事さんも入塾していたと記憶しています。

さて、その本の「第1章 子どもは磨けば必ず輝く」の中に、「人間としての優等生に育てる」という項目を発見しました。その内容についてちょっとだけ紹介します。

- 全ての子供さんが全ての面で人並み以上に優れた優等生になることは、到底不可能だといわなければならない。
- 私は、人間としてもっとも尊いことは、学校で優等生になることもさることながら、それよりも、“人間として優等生”になることだと考えている。（原文に下線部加筆）

では、“人間として優等生”になるとはどういうことか。

- 人それぞれが自分の持てる素質なり性格、能力を十分に生かす仕事に就くことが、自分の喜びにもなり、また社会のためになる。そういう人になることが、わたしは“人間として優等生”になることだと思うのです。
- これならば、学校における優等生とは違って全ての人がなることができるし、それは人生において何にもまして尊いことではないでしょうか。（原文に下線部加筆）

そして、“人間として優等生”にするための基本の心構えがとして大切なことは、

- **子供を素直な心の持ち主に育てよう努めることだ。**

と、言っています。また、こうも言っています。

- 子供の素直な、私心のない心の持ち主に育てるならば、子供は何が正しいことかというのを、自主的に誤りなく判断できるようになりましょうし、自分の持ち味を生かすことの大切さ、尊さというものをもおのずと理解して、勇気と自信をもって自分の道を歩いていくこともできるようになりましょう。素直な心とはそのように人を強く正しく聡明にするものだと思うのです。（原文のまま）

松下幸之助さんの言葉をそのまま書き記しましたが、いかがでしょうか。人それぞれいろいろな考えはあるでしょうが、このような考えもあることを知っておくことは、これから子供たちを教導く、保護者や地域の方々、学校の先生にとっても有益なことだと、私は考えます。

子供たちは、「みんなちがって みんないい」です。そのためにも、その子の個性や力を最大限に伸ばしていけるよう、職員一丸となって取り組んでいきたいと考えます。